

2018年度日本建築学会北海道支部技術賞 受賞者一覧 (順不同・敬称略)

◆北海道支部技術賞

株式会社 NTT ファシリティーズ

岩田 樹美

長尾 康嗣

千葉 陽祐

伊菅 信幸

矢作建設工業株式会社

上田 洋一

表彰技術名—外観デザインの一新と建物の長寿命化を実現する耐震補強と外壁改修の一体的改修技術の開発

◆北海道支部技術賞

山本亜耕建築設計事務所

山本 亜耕

有限会社タギ建築環境コンサルタント

サデギアン・タギ

株式会社丸稲武田建設

武田 司

飯田ウッドワークス株式会社

飯田 信男

株式会社丸三ホクシン建設

首藤 一弘

株式会社橋本・川島コーポレーション

村田 桂二

表彰技術名—300mm 断熱住宅の一般化に向けた試み

(3) 審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて、支部技術賞選考部会を構成する委員を確認し、選考部会を計2回開催した。

初回の技術賞選考部会では、応募のあった下記2件の内容について協議した。

応募された技術等の名称:「外観デザインの一新と建物の長寿命化を実現する耐震補強と外壁改修の一体的改修技術の開発」と「300mm 断熱住宅の一般化に向けた試み」(受付順)

募集要領の選考基準に定められる、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点に基づき技術内容を把握した。応募書類にある技術内容について、必要

に応じ該当する応募者に質問文書を送り、適宜、追加資料の提出を求めることとした。

第2回の技術賞選考部会では、提出のあった回答書および追加資料を併せて、技術内容について再度議論したうえ、投票により「外観デザインの一新と建物の長寿命化を実現する耐震補強と外壁改修の一体的改修技術の開発」と「300mm 断熱住宅の一般化に向けた試み」との2件をともに技術賞表彰候補とした。

<寸評>

●「外観デザインの一新と建物の長寿命化を実現する耐震補強と外壁改修の一体的改修技術の開発」は、今や欠かすことのできない重要な社会インフラのひとつである情報通信を司る建物において、その機能を継続しながら耐震性を高め長寿命化を実現しようとする技術である。加えて、当該建物は都心部に立地し代替用地の確保は難しいことから、敷地境界が近接する条件でのコンパクトな施工方法を開発するとともに、積雪地特有の着雪および落雪に対して融雪シート等のエネルギー消費に頼ることなく形態による解決策を提示し、さらには近隣の建物外観との調和を図ることにも配慮しながら目的を達成する取組みである。これらの技術的特徴や街並み景観的配慮は、「地域性・独自性」の点で高く評価された。

●「300mm 断熱住宅の一般化に向けた試み」は、おもに寒冷地の住まいにおいて発達し、近年では本州以南でも地球環境負荷低減の観点から注目を集める「断熱性能」のさらなる向上ならびに施工容易性の確保、一般住宅への普及を目指した技術開発である。開発場面では、地場の設計事務所、コンサルタント、建設事業者及び建具製造事業者の連携・協力を通じ、一般住宅向けに一般の設計者、施工者が無理なく供給できる断熱工法を実現した。当該技術は室内環境改善、建築デザインの自由度向上、地域工務店の技術力活用等の観点から、寒冷地の住宅の一つの方向を提示しており、加えて、道内各地における10年余りの施工経験を通じて工法の改良やバリエーションの拡大を行ってきた実績も認められ、今後の普及にも期待が持てる。これらの取組み内容や普及の実績は、「継承性・継続性」の点で高く評価された。

後日、支部役員会にて、技術賞選考部会から技術賞表彰候補として報告し、審議の結果、2018年度日本建築学会北海道支部技術賞に決まった。

(文責：岡本 浩一)